

授業科目	法情報学演習
演習題目	法学の基礎と情報(科)学
担当教員	西村友海
授業の目的	現代社会において避けて通ることのできない情報学、あるいは情報科学という「異分野」との接し方について学ぶ。また、そうした異分野の目線を通して法について考察することで、翻って法とは何か、あるいは法学とは何かについて理解を深める。
履修条件	特にない。法学に関する知見のみならず、異分野（とりわけ情報科学）の知見を摂取することに関心のある好奇心旺盛な学生を歓迎する。 なお、本ゼミには数理学府や法学府の大学院生も参加する可能性がある。こうした異分野の研究に従事している先輩との交流に抵抗がない、あるいは関心がある学生を歓迎する。
教科書・参考書	輪読の対象とする書籍を協議の上で決定する（以下の「計画」欄参照）。
授業の計画・内容	<p>前期・後期を通して、法学と情報学・情報科学に関する論文あるいは書籍を輪読する。対象とする書籍については受講者の希望を踏まえて決定するが、以下のような書籍・論文を読解することを想定しているため、あらかじめ参考にされたい。</p> <p>【書籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出口雄一・小石川裕介編『法学者たちと出版——戦後日本法学の知的プラットフォームをたどる』（弘文堂、2025） ・ 佐藤健・新田勝己（編）『人工知能と法律』（近代科学社、2022） ・ 郭薇『法・情報・公共空間——近代日本における法情報の構築と変容』（日本評論社、2017） <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田高「法の構造と計量分析」社会科学研究 72 巻 2 号 3 頁（2021） ・ 澤出成意人「学説の実務に対する影響の経験的把握・試論 —不法行為判決文の計量テキスト分析—」社会科学研究 76 巻 231 頁（2025） <p>※ 書籍の場合には複数回に分けて読解する（場合によっては一学期を通して読解する）が、論文の場合には分量が短いため、各回一本として進める可能性もある。これらの進捗については、いずれも文献の難易度や分量、受講者の希望を踏まえて決定する。</p>
成績評価の方法	ゼミにおける発表、ゼミへの貢献（質疑応答での発言など）を中心として評価する。